

【問合せ先】

島根県病害虫防除所 担当：奈良井・澤村
TEL：0853-22-6772
FAX：0853-24-3342
(島根県農業技術センター資源環境研究部病虫科内)

令和3年度 病害虫発生予察情報 特殊報第2号

令和3年11月17日
島根県病害虫防除所

本県において、ネギハモグリバエ B系統の被害が確認されたので特殊報を発表します。

- 1 病害虫名 ネギハモグリバエ B系統
- 2 学名 *Liriomyza chinensis* Kato
- 3 作物名 ネギ
- 4 発生経過

令和3年9月末に県東部で栽培されている白ネギほ場において、ハモグリバエによる激しい被害(図1, 2)が認められた。この被害症状は従来のネギハモグリバエ(以下、A系統)と異なり、他都府県で発生が認められているネギハモグリバエ別系統(B系統)に酷似していた。このため、採集した被害株から幼虫を飼育し、羽化後の成虫を国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構野菜花き研究部門に遺伝子解析を依頼したところ、10月27日に本県では初確認となるB系統と同定された。

5 国内における発生状況

B系統は平成28年に京都府で確認されて以降、現在まで全国27都府県で発生が認められている。中国地方では鳥取県と山口県で発生が確認されている。

6 被害の特徴

幼虫がネギ葉中に潜り込んで食害し、食害後は白い筋状の潜孔を形成する。B系統はA系統に比べて1葉当たりの幼虫数が多く、被害が激しい場合には葉全体が白化したように見える(図1, 2)。また、雌成虫は産卵管で葉の表面に直径1mm前後の穴をあけ(図3)、そこからにじみ出る汁を摂食したり、葉の中に産卵したりする。

7 形態及び生態等

- 1) A系統とB系統は成虫(図4)の形態での区別は困難で、幼虫の被害状況とmtCOI領域の塩基配列の違いで区別出来る。
- 2) 成虫の体長は2~3mm、胸部と腹部は黒く、その他の部分は淡黄色である(図4)。幼虫は淡黄色のウジ(図5)で、葉中を加害し成長する。終齢幼虫は体長が約3~4mmに達すると葉から脱出して、地表または土中で褐色で俵状の蛹(図6)になる。
- 3) A系統の卵から羽化までの発育日数は20℃で36~40日、25℃で23~26日、30℃で約19日である。
- 4) A系統の被害はネギの他タマネギ、ラッキョウ、ニラ、ニンニク、ワケギで認められている。一方、B系統の被害は現在ネギの他、一部のタマネギで認められている。

8 防除対策

- 1) 発生を認めた場合、被害葉を取り除き、ネギハモグリバエに登録のある薬剤を散布し防除を徹底する。なお、薬剤抵抗性害虫出現防止のため、同一系統薬剤の連用を避ける。
- 2) 被害葉及び収穫残さは本種の発生源となるので、残さ等はほ場内に放置せず、一か所にまとめて積み上げ、表面をビニールで被覆する等適切に処分する。

9 参考資料



図1 白ネギの幼虫被害



図2 被害部の拡大

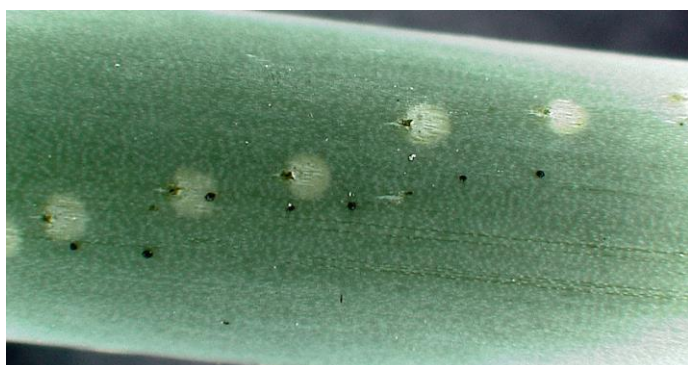


図3 雌成虫の産卵管による被害



図4 ネギハモグリバエ成虫



図5 ネギハモグリバエ幼虫



図6 ネギハモグリバエ蛹